

施策横断的な課題に取り組むための調査研究（平成 29・30 年度） 研究代表者 大阪大学大学院人間科学研究科 野坂祐子

1. H29 年度調査研究の結果

- 性的被害を受けた多く児童を受け入れていると想定される児童自立支援施設を対象にヒアリングを実施。
- 児童の個人的なトラウマとその影響に対する対応は、現場の取組状況は一律でなく、以下のように幅があることがわかった。
 - i 児童自身や集団の混乱を生じさせないように「慎重に避ける」施設
 - ii 児童自身や職員がトラウマを理解した上での積極的対処（トラウマインフォームド・ケア。以下「TIC」という。）を講じる施設
- そのため、将来、全国的な実態把握を行うことを見据え、ヒアリングやアンケートによる実態把握を更に進めることとした
- また、施設の積極的な取組を促すには、「TIC」の効果のエビデンスを示す必要。「TIC」に基づく研修に用いる児童向けの心理教育用教材を開発。次年度以降の実践研究と効果評価につなげる。
- そうしたことを通じて、児童自立支援施設を切り口に、広く児童福祉行政サービス領域において、被害の安全な把握方法と効果的な支援・介入のための方策の検討とガイドライン策定を目指すこととする。

2. H30 年度調査研究の結果

- 昨年度に引き続き、児童自立支援施設のヒアリング調査、教材の改訂・開発を実施。
 - 調査の結果では、TICによる取組に着手している施設では、TICが一定の有用性をもつこと等が認識されていた。
- 「TIC研修」を試行的に実施（児童自立支援施設及び児童相談所等の職員を対象）
 - 参加者は、研修後、TICの理解と有効性などについて、肯定的な評価をした。
- 児童相談所における、性的被害を受けた児童に対する専門面接の実施状況について予備的調査。
 - 研修参加者に専門面接の実施状況を調査したところ、専門面接の実施状況、特に施設入所中に発覚した事案への対応の差があることも伺えた。